

G_{rand} C_{entral} S_{tation} NEWS

大宮駅グランドセントラルステーション化構想 ニュース

発行 令和3年1月 さいたま市

新春の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本号では、『令和2年度第4回デザイン調整ワーキング』で皆様からいただいたご意見をご紹介するとともに、1月27日（水）に開催予定の『第11回GCS推進会議』のご案内をいたします。

引き続き、GCS構想の実現に向けて検討を進めて参りますので、今後とも皆様のご協力をお願いします。

1 令和2年度第4回デザイン調整ワーキング開催の報告

今回の『令和2年度第4回デザイン調整ワーキング』は、12月1日（火）に開催し、32名の方にご参加いただきました。

当日は、『大宮GCSプラン2020（案）』の深度化方針についてご説明した上で、「まちの質や魅力を持続する仕組みについて」と題して、①「公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）」、②「公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）」、③「上記（①と②）を実現するための公/民の役割について（エリアマネジメント）」の3つのテーマを基に、参加者の皆様にグループワークを行っていただき、様々なご意見をいただきました。

次頁から、いただいたご意見をご紹介します。なお、詳細は市ホームページをご覧ください。



▲会場の様子



▲グループワークの様子



▲発表の様子



2 当日の主なご意見

本頁からは、皆様から当日のグループワーク及び意見用紙でいただいたご意見をテーマごとにご紹介します。なお、いただいたご意見は合同部会及びGCS推進会議へ報告するとともに、各プロジェクト・チーム※（以下「PT」）へ調整事項を整理して伝達します。

公共空間の柔軟な使い方について（祭り時／災害時／日常時）

●多様な利用を考慮した空間づくり

- ・歩行者空間・交流空間・防災空間の**多様な機能を合わせ持った空間づくり**が重要。
- ・交通広場の段差解消やデッキ・シェルターの高さの工夫をすることで、**日常時のバリアフリー対応と、お祭り時の利用しやすさ（山車の通行など）を考えた空間・設えの検討が重要**（デッキの高さ・配置、歩道の段差、可動式プランターの活用等）
- ・駅前を中心に、**小規模でも様々なイベントが生まれると良い**。

●快適で持続的な利用ができる空間づくり

- ・デッキによって地上が暗くなることのないようにしてほしい。どこにでもあるようなデッキがある駅前ではなく、**大宮の個性を大事にした駅前**であってほしい。
- ・緑化は**高木に群がるムクドリの被害も考慮した検討**が必要。
- ・屋根をかけるのであれば、**閉鎖的なデザインにならないように**してほしい。また、**維持管理にコストがかからないように**することが必要。

●柔軟な使い方を可能とする仕組みづくり

- ・道路や公園など**規制が多い場所の利用申請を簡略化するなどの使いやすさ**が必要。
- ・交通広場は、**土日・平日やピーク時・オフピーク時のダイヤの工夫でバスバース数を減らせないか**。

●災害時の備えとしての空間づくり

- ・大宮駅は地域の備えだけでなく、**広域的な拠点としての備え**も必要。
- ・**地下空間は浸水対策、排水対策等をしっかり行う**ことが必要。
- ・**民間事業者や鉄道事業者との地域にふさわしい連携方法**を検討することが必要。

公 / 民の役割について（エリアマネジメント）

●マネジメントが必要な事項

- ・**公共空間の利用と維持管理、費用負担等のルールづくり**が必要（日常的な管理、イベント時の利用、災害時の備え、植栽の管理等）。
- ・**お祭りや小商いの文化の存続支援・継承**が必要。

●主体の必要性

- ・**住民が参加でき、イベント等を継続的に企画・実施する主体**が必要。
- ・様々な事業の動きに合わせて、**行政と連携・役割分担して展開**することが必要。

●市民の声の反映、事業連携を促す仕組みの必要性

- ・デザイン調整WGのように**住民の意見を伝え、反映できる場**が必要。
- ・**駅や周辺の整備が連携できるよう、議論や調整をする場**が必要。
- ・**取組みの情報発信力の向上**が必要。
- ・**市民の声を聴き、人間味のあるまちづくりを展開**することが重要。



公共空間と都市機能の連動について（まち全体の経済効果の創出）

●求められる機能を考慮した空間のあり方

- ・駅前と周辺街区とで、場所に応じた案内や情報提供、災害時における役割分担（避難場所・備蓄倉庫の確保）等、各々に求められる機能を整理することが必要。
- ・災害時に建物が利用できる設備やルール、仕組みづくりが必要。
- ・トイレ等の施設は、災害時・日常時いずれも利用しやすくあることが必要。

●大宮らしさの創出への配慮

- ・地域をつなぎ、活かし、育てるような公共空間を目指したい。
- ・コストに留意しながら、大宮らしい駅前空間を創出してほしい。
- ・失われつつある商都であった本来の「大宮らしさ」を大事にしたい。
- ・商業地としての魅力+氷川神社の存在の特徴づけが必要。（緑化の工夫等）



●開発街区同士の連携による人の流れの強化

- ・各開発街区で地下の連携動線を確保し、地下レベルの人の流れを強化できると良い。

●利便性の高い縦動線の配置や機能確保

- ・縦動線は、各階の縦の接続確保と、縦動線へ連絡する横の接続確保が重要。
- ・駅前広場に面する建物の縦動線は広場に面するように設け、日常時の移動しやすさを確保するとともに、災害時の避難空間になると良い。
- ・縦動線には wi-fi の整備や災害時に情報が得られるような仕組みを設けることが必要。

●これからの都市づくりに求められる戦略・取組み

- ・エリアマネジメントの財源として都市空間を活用した広告戦略を検討すべき。
- ・エネルギー改革を踏まえた取組みを考えていけると良い。
- ・トータルで混雑を抑える交通戦略（車両・歩行者動線、駐車場配置等）が重要。

その他（今後の進め方について等）

●今後の検討のフィードバックの必要性

- ・PTの議論をスムーズに市民へフィードバックしてほしい。

●これまでのデザイン調整WGでの意見反映

- ・ガイドラインや各個別事業の図において、これまでのデザイン調整WG等における議論や調整を反映した部分がわかるように示すことが必要。ガイドラインは総花的だが、事業全体で骨太の方針が必要。
- ・バリアフリー等は、概念を示すだけでなく、実態に即した検討を行ってほしい。

●今後の検討の進め方について

- ・地域の歴史・文化など、これからのまちづくりにつながる情報の見える化が必要。
- ・駐車場と駐輪場を一体的に扱って検討すべき。
- ・各PTがバラバラに検討するのではなく、連携する場が必要。



3 意見用紙でいただいたご意見

① 大宮 GCS プラン 2020 (案) について

商業のまちなど
大事にしたいテーマ
の軸を通すことが大切

・駅前空間には様々な機能が求められるため、調整は非常に難しく、総花的にならざるを得ない部分もあるだろうが、1つの大事にしたいテーマで軸を通すことが大切だと思う。今日のまとめを聞いて、改めて大宮らしさは商業であると思ったので、日本一商売しやすい駅前・まちを本気でつくるのが良いのではないかと。

プランの根幹となる
戦略をさいたま市が
定めてほしい

・プラン根幹の地盤が、盤石でないように感じる。まちや事業者が主体の開発であっても、地盤と出口戦略を大元のさいたま市が定めることで、より各整備に整合性のある良いまちづくりができると思う。

PT 同士のつながり
も重要である

・現在動いている各 PT に、関係したそれぞれの検討内容を下ろすのは良いと思うが、各 PT 同士でどこまで検討が進んでいるのか共通認識を持って進めているのか。各 PT が専門分野の検討をするのは時間的にも有効だと思うが、最終的には GCS プランを完遂するのが皆の1つの目標なので、PT 同士のつながりは重要である。PT 同士のつながりはどのようになっているのか。
・各 PT で検討課題が出ているが、まとめていくことが出来ないと良いまちづくりはできないのではないかと。

まちを訪れる人の
視点も加え、公民一体で
人間中心のまちづくりを
目指すべき

・人間中心のまちづくりを目指すのであれば、人々は何を求めて何を目的にまちを訪れるのかという視点が重要だが、欠落しているように思える。例えば、時系列で人々の動きを例示してみるべきである。その際に、公共空間と民間空間は個別の存在ではなく、来街者はこれらを一体としてまちを使いこなすという視点も重要である。現在、民間開発の内容が明らかでないため、上記を描くのは困難であるが、将来これを一体化する方向性を明示すべきである。なお、この“人々”には買物等の商業目的に加え、業務関係者も含まれる点を忘れないように。

大宮駅の国家レベルでの
重要性について認識し
住民に伝えるべき

・大宮駅の国家レベルでの重要性や、大宮駅の果たすべき社会的責任についてしっかりと住民に伝えた方が良いと思う。そして、大きな予算を得て開発を進める重要性について認識することは、机上の空論にならないためにも必要である。

歩行者を駅からすぐに
地上に降ろすべき

・駅前広場の柔軟な使い方についてデッキをつくる話も出ているが、歩行者は2Fから地上へいずれば降ろさなければならないため、駅からすぐに降ろせば良い。

日常時と災害時など
公共空間の柔軟な使い方を
検討してほしい

・公共空間は限られた場所にしか設置することが出来ないため、複合的な目的で使うことが考えられる。例えば、駅前広場の空間について、日常は交通結節機能に使い、災害時においては帰宅困難者の受け入れに使うことが挙げられる。いずれにしても日常と非日常の両面からまちづくりを議論していくことが肝心と考えている。

辻空間の整備について
具体的な検討を
進めてほしい

・辻空間については、『大宮 GCS プラン 2020 (案)』においていくつかの整備想定箇所が記載されている。特に新東西通路の東西口はその整備箇所とされているが、プランの深度化の検討が進んでいないことから、今後、具体的な検討を進めていくべきである。

先端技術の活用で
駐車場を減らし、駐輪場
や託児所を設置義務に
加えることはできないか

・新設の区役所をみると駐車場は余裕があり、駐輪場が不足気味である。東口駅前が必ずしも同様の状況になるとも思えないが、駐車場の設置義務を少なくして駐輪場や託児所を設置義務に加えることは可能か。スマートシティを目指す大宮としては、タクシープールやバスターミナルに関する先進の技術革新で解決できないものか。

氷川参道まで人々が歩き、回遊するまちにしてほしい

- ・南地区の準備組合が設立され、駅前地区全体が再開発の検討を進める意向を示した現在、バス停を分散配置（駐車場は駅前とする）すれば、駅前の交通機能がゆるやかになり、駅からデッキを使わずとも、人々を駅前広場に降ろす事が可能になると思うので、検討をお願いしたい。駅からまち全体に人々が自由に行き来する事ができ、一丁目、二丁目、三丁目、氷川参道、産業道路まで広がるまちづくりが可能になると思われる。大宮小学校、旧区役所跡地の開発も考えられている現在、参道まで人々が歩き、回遊するまちづくりをお願いしたい。タクシーは地下で良いかもしれないが、バスを地下にするのは無理がある。

プランの構成や書いている内容が分かりづらい

- ・『GCS プラン 2020（案）』内に書かれている、目的・位置づけ・方向性・まちづくりガイドラインの目的と役割・都市空間形成の目標・整備の指針等と描かれている挿絵の違いが理解できない。また、多くの意見が出ているにも、個別計画・駅改良計画（素案）を見ると更に理解できなくなる。多くの住民を意見を聴きながら内容が積み上がってこないのは何故なのか。意見交換する度に元の意見がでてきて「またここからか」という印象が非常に強い。

その他

- ・デッキの維持費はどこが負担するのか。将来のことも考えてほしい。
- ・豪雨、暴風、地震についての記載もはっきり示してくれてありがたい。
- ・低木エリア、高木エリアを区分する等、緑のあり方についてしっかりと検討してほしい。
- ・新東西通路は計画以上に拡幅できないのか。さいたま新都心程度の幅があれば良い。
- ・まずは少しでも早く、具体化して進めてほしい。
- ・やっと「PT=プロジェクトチーム」ということが分かった。
- ・トータルコーディネーターは必要ないのか。
- ・今の進行状況で国土交通省の求める“バックアップシティ”としての大宮は出来るのか。



② 今後の進め方について

民間との連携について検討してほしい

- ・公共施設（交通、歩道等）に関しては議論し尽くしているであろうから、公共と民間開発との連携の方法や、官民が一体となったまちづくりの計画策定方法を明らかにしてほしい。

WG 意見を上部会議にどう伝えるのか分かりやすかった

- ・デザイン調整 WG で取りまとめた意見を上部会議にどのように出すのかを示してもらったことは、とても分かりやすく、良い情報共有であった。

会議の出席者以外への宣伝も大切

- ・会議に出席する人は意識が高いから良いが、会議で出た意見などを広く市民に広報する責任もある。宣伝、理解は大切である。

ポストコロナであってもリアルな体験や発見ができるまちにしてほしい

- ・人口減少の中で、将来の大宮にとって東口駅前の商業の活性化は税収の減少対策としても必要不可欠なものだと思う。ポストコロナの時代でもリアルな体験は人間の本能であり、アマゾンで物を買ひ、ウーバーイーツで食べてリモートで仕事をするだけで幸せな人生にはならない。手で触り、肌で感じ、足で歩き目で見て共感し、感動する。着飾って出歩く街角や風情のある路地、幾度でも行きたくなるまち、新しい発見や経験の出来る様なまちにしたい。

PT 等の他の会議体と連携し、フィードバックを今後活かしてほしい

- ・今回は前回までの振り返りがあったので、新たな検討問題が明確化されて良かったと思う。今後も我々の出した意見が各 PT に下ろされた結果、どのように進んでいるのか等のフィードバックをしながら、それを踏まえて次の会議に活かしてほしい。
- ・デザイン調整 WG から各 PT へ提言していくのであれば、各 PT の検討結果が見えるようにしてほしい。結果的にこれが双方向での意思疎通に繋がるものと考えている。
- ・11/27 新東西通路 PT に出席し、PT 出席メンバーからは新東西通路だけの資料では関連がわからないとの意見があり、それは当然のことだと思った。大宮 GCS 推進会議、合同部会、デザイン調整 WG、各 PT がバラバラで、連携が図られていないのがはっきりしてきたと思う。
- ・PT のメンバーはこれで良いのか。PT=プロジェクトチーム（専門家会議）と称しているが、地元住民があまりにも少なく、大宮東口（地元）の現状を理解していないヒト集団で物事を検討していく怖さを強く感じた。
- ・年度内のデザイン調整 WG が終わり、次回の新東西通路 PT が 3/10 なのは何かピンと来ない。おかしくないか。
- ・大宮グランドセントラルステーション化構想、大宮 GCS プラン 2020（案）等に対し、大宮駅東口駅周辺（500m 圏内）住民に対し説明会や意見交換の場をつくるべきと考える。このまま進むとすれば、住民側からの“大宮 GCS 住民検証会”的な会の発足の必要性があると思う。行政資料にある「地元、市、鉄道事業者、三者が密に連携し、三位一体による構想の推進を図ります」に反するのではないか。強く疑問を抱いている。

その他

- ・人を集める目的物としての東日本対流拠点形成を、市の事業として取り組んでほしい。
- ・会議の進め方は良い。
- ・テーマの設定の仕方が分かりにくい。分かりやすい言葉と表現をお願いしたい。
- ・以前に参加者に若い人や障害のある人も加えるべきという意見が数多くあった。この会以外でも意見を聞く機会を設けているのか教えてほしい。もしまだなら早く実現してほしい。
- ・地元の意見と共に広く来街者の特性など客観的なデータやアンケートを取れたら良い。

4 第 11 回 GCS 推進会議のご案内

1月27日（水）に開催予定の「第11回GCS推進会議」は、新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言発出に伴い、対面での開催方法を見直し、オンラインによる開催を予定しています。

当日は、パブリック・コメントの結果等を反映した『大宮GCSプラン2020』をご提示するとともに、デザイン調整ワーキングや各PTの検討内容のご報告、今後の検討体制やスケジュールのご説明をする予定です。

傍聴を希望される方は、市ホームページにて傍聴方法や申込方法をご確認ください。

【開催日時】

令和3年1月27日（水）

15時00分～

【開催場所】

オンラインによる開催

【傍聴の定員・申込み】

市ホームページにて最新情報をご確認ください



【GCS 構想ホームページへのアクセス方法】

以下の2つの方法からアクセスできます。ぜひご覧ください。

①キーワードで検索 ▶

②QRコードを読み取り ▶



※その他、GCS構想に関するご質問・ご意見等、随時受付けておりますので、下記までご連絡ください。

連絡先：さいたま市 都市局 都心整備部 東日本交流拠点整備課 拠点施設整備係
[TEL] 048-646-3281 [FAX] 048-646-3292